

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型通所支援事業所 あさてい(児童発達支援)		
○保護者評価実施期間	2026年 3月 2日		2026年 3月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 6
○従業者評価実施期間	2026年 3月 2日		2026年 3月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 30日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	遊びと学びのメリハリがある環境づくり	お子様が伸び伸びと安全に動けるよう2階建ての環境を活かし、静と動の活動に合わせた空間の区分けを行っている。	お子様の特性や成長に合わせ、パーティションの活用や視覚的な構造化をさらに進め、集中しやすい環境を追求する。
2	きめ細やかな保護者連携と共有	写真付きの連絡帳を活用し、日々の活動内容(ハサミ、文字書き、公園での様子等)を具体的に伝えることで、信頼関係を築いている。	連絡帳だけでなく、送迎時の対面でのコミュニケーションや電話連絡を継続し、保護者の不安やニーズに寄り添った支援を深める。
3	お子様の主体性を尊重したプログラム	遊びがマンネリ化しないよう多様なプログラムを企画し、お子様が「今日も楽しかった」と思える活動を提供している。	お子様の興味関心の変化を敏感に察知し、意欲を引き出す新たなプログラム(季節行事や食育等)をチームで立案し続ける。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	非常災害対策(訓練)の実施と周知	マニュアルの策定は進んでいるが、具体的な避難訓練や救出訓練の実施が未完了であり、保護者への周知も不十分である。	定期的な避難訓練の実施計画を立て、速やかに実行する。また、訓練の様子を保護者に報告し、災害時の連携体制を明確にする。
2	地域交流の機会の創出	公園への外出などは行っているが、地域住民や他の児童施設との積極的な交流機会が十分に持てていない。	近隣施設との交流や、地域行事への参加・招待などを検討し、お子様が社会との繋がりを感じられる機会を段階的に増やしていく。
3	保護者支援プログラムの拡充	日常の報告は行えているが、ペアレント・トレーニングや専門的な研修会の開催・情報提供の機会が少ない。	定期的な面談の実施に加え、家庭での療育のヒントとなる情報発信や、外部講師を招いた学習会の検討など、支援の幅を広げる。